

京都の町家



みなさんは「京町家」をご存知ですか？ 京都の伝統的な家屋のことで、繊細な格子を基調とするデザイン、夏の暑さに対応した風通しの工夫などの特徴は、現代にも通用するものがあります。今回は京町家について探ってみました。（ココアリキュール）

町家ってどんなもの？ ～町家基礎講座～

ここでは、町屋の持つ外観の繊細な意匠の数々と、内部の空間の特徴についてご紹介します。



格子

町家の顔ともいえる重要な部分。外から中は見えにくく、中からは明るい外の様子がよく見える。米屋格子、炭屋格子など家業によってデザインが異なる。写真のものは一般によく見られる糸屋格子。

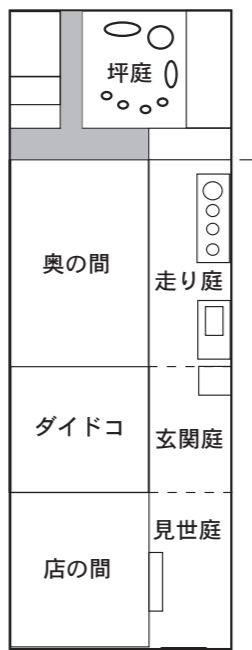


駒寄せ

表通りに家屋に沿って作られた木の柵で、私有地の境界を示す。客の馬を繋ぎとめておくためのもので、馬に壁を傷つけないように設けられたともいわれている。

むしこまど 虫籠窓

中二階の表壁に設けられた、格子を土壁に塗りこめた窓。形が虫かごに似ていることからこう呼ばれる。



表口から奥に進むにつれて段階的に公の仕事空間から私の生活空間になる。部屋数が少ないため、「ダイドコ」は食堂と玄関と子供の寝室を兼ねる、というように、一つの部屋が様々な機能を持っている。

通り庭

通り庭

建物の表から裏まで続く細長い土間。風通しがとてもよい。面する部屋ごとに、見世庭、玄関庭、走り庭と呼ばれる。天井が吹き抜けになっていて、開放感がある。



いぬやらい 犬矢来

通りに面した壁を覆う竹などでできた囲いで、雨の跳ね返りなどから壁を保護する。割竹が美しくカーブが美しい。



しょうき 鐘馗さん

中国に由来する邪気を払う神様。瓦でつくった人形で、魔よけとして玄関上の庇に置かれている。

おくどさん

煮炊きをするための竈。近くに竈の神様が祀られ、「火酒要慎」と書かれた愛宕神社の火除け札が貼られる。



坪庭

建物の奥に作られた小さな庭で、室内に光や風を呼び込む。手水鉢や灯籠が置かれ、様々な樹木が植えられている。わずかな空間だが、季節感にあふれ、住む人のこだわりが感じられる。



「町家」という様式の由来

町家の原型は、遠く平安時代から見られます。当時は家屋が街区ごとに塀で囲まれ、通りから町の様子が見えなくなっていました。

現在の型ができあがったのは江戸時代中期といわれています。この頃京都の町には主に商人や職人が住んでおり、店舗の入り口が通りに面している必要がありました。街区を囲う塀は徐々に壊され、四方に開けてゆきました。また、人口の急激な増加によ

て家屋の需要が急激に伸びたため、間口の広さが制限され、広さに応じて税がかけられました。高い税を取られるのを避け、なおかつ暮らしやすい広さを持った家屋を建てるための工夫をした結果、「鰻の寝床」とも称される、間口が狭く奥行きのある建築様式ができあがったのです。

現在では、町家はまばらに建っていることが多いのですが、昔は町ごとに同業種の人が集まり、同じ意匠の格子などを用いたため、統一感のある町並みが広がっていたようです。

町家の今

町家は防災上難しい構造をしているため、現在では新しく建てることはできません。現存するものを大切に保存していかなければ、町家はなくなってしまうのです。

京町家再生研究会をはじめとする市民グループによって、町家の保全・再生運動が行われ、町家に対する関心が高まっています。



町家に暮らす

町家は薄暗く、維持が大変であるなどの理由で敬遠され、住む人が減ってきているようです。それでも「代々伝えられてきた家を守りたい」と、町家に暮らす人たちもいます。また、最近は町家の持つ風情に憧れて、家族で町家を買取り取り、友人と共同で一軒借りて住んだりするケースが見られます。

町家で催し

町家とその文化を紹介する様々な催しが行われています。個人の住む町家の内部を公開し、見学できるというものや、町家での生活文化を実際に体験できる「町家塾」などがあります。この他にも、町家をギャラリーとして利用し、着物や染物の展示などが行われるところもあります。



四条通りと西洞院通りの交差点近くにある、「四条京町家」で行われる町家塾。塾長の小泉光太郎さんに、町家の生活について、町家塾についてお話していただきました。

町家の生活のよいところは？

町家の中では四季をよく感じる事ができるんです。秋だったら天窓から明るい月が見えたり、庭から虫の声がしたりね。季節の巡りにあわせてかたる遊びやお月見をするといった雅な文化や、簾や通りへの打ち水のような暮らしの知恵が育まれてきました。5月なら鮎、というように、旬のごちそうを食べることも楽しみですね。

鉄筋コンクリートの個室の中にと、五感を忘れてしまうような気がしますね。町家の中にいると、隣の家の音が聞こえたり、ご飯の匂いが漂ってきたりするんです。人の生活の気配を身近に感じられて安心します。向こう三軒両隣の文化ですね。

町家塾を始めたきっかけは？

今の京都の町を見ると、生活がどんどん洋風になってきている。町家やその文化が消えていくことに疑問を感じたんです。町家の生活を知らないから、町家をいらないと思ってしまう。町家は300年の歴史を持ちます。けっして悪いものではないんです。「町家の中での暮らしっておもしろいな」と思ってもらいたくて町家塾を始めました。

町家塾は、京都の生活文化をみなさんに体験してもらおう場です。これまで京野菜を使った料理教室などを行ってきました。今後は合宿などもできるようにしたいですね。

これからも多くの人に、京都の伝統文化を発信していきたいです。

町家をお店に

京都ならではの趣を今に伝える町家。その風情を活かしたお店がここ数年増えています。

ほとんど手を加えず、町家そのものの姿を保っているものもあれば、外観だけを残して内部は改装しているものもありますが、どの店も木の温かみや懐かしさを感じさせる意匠に心がほっこりします。

お食事処や雑貨屋さんが多く、最近はエステサロンや東洋舞踊教室、花屋さんなどもあります。



町家塾は、現在朽ちかけて弱っている古い京町家を再生しようと計画しています。まずは古い埃などの掃除からスタート。京都の生活文化の保存、新しい活用に、協力してくれる人を募集中です。詳しくは下記連絡先までお問い合わせください。

小泉光太郎さん 連絡先
TEL 075-841-5000
FAX 075-811-2184

はみだし
すてーじ

かたつむりはエスカルゴだと思っても食べられないと思います。
⇒かたつむりは焼いてみるとおいしいかも!? と思います。

(工・3 ぶるー)
(アルマジロを食べてみたい編)

はみだし
すてーじ

高校の時は友人に「君の生活は起伏が激しすぎる」と言われていたのに…
⇒私は京大に来てからというもの、毎日がジェットコースターです。

(理・1 tranquil)
(振り落とされないようにしがみつくのが精一杯な編)